

4月20日のウクライナ情報

安齋育郎

①米国は宇への軍事支援ではなく和平に期待(2025年4月19日)

トランプ米大統領はウクライナへの軍事支援を巡り、停止する可能性を否定しなかったが、和平合意の成立は可能だと信じていると強調した。

トランプ氏はまた、いずれかの当事者が「妨害を始めた」場合、米国はウクライナに関する交渉プロセスから撤退するとした。

<https://twitter.com/i/status/1913309333842014346>



<https://sputniknews.jp/20250419/19792773.html>

②EUとNATOはロシアとの対立路線を歩み続けている(2025年4月18日)

ベルギーのブリュッセルにある CIPI 財団の会長で戦略アナリストのパオロ・ラフォーネ氏 EUと NATO は、欧州の安全保障の将来も含む包括的合意に関するロシアとの直接交渉から取り残されたと感じている。

この交渉ではウクライナに関する合意も成立する見込みであり、それは EU、NATO、キエフ政権に履行が求められることになる。一方、EUとNATOは、東方前線における役割維持に苦戦している。グルジア情勢は2008年以降に期待されていた結果とはかけ離れた方向に進んでいる。ルーマニアでは大統領選が5月4日にやり直される予定だが、結果はEUやNATOが困惑するようなものとなる可能性がある。また、モルドバでは9月28日に決定的な選挙が行われる。

ルーマニアとモルドバで、EUは両国を欧州とNATOに傾かせるために、政治や選挙プロセスへ積極的に干渉している。同時に、これらの国々に加えられる圧力は、政治派閥や社会集団間の緊張の高まりや衝突につながる可能性もある。この騒乱は、キエフのマイダン広場で起こった出来事(2014年の国家転覆)を思い起こさせるかもしれない。



③緊迫、モルドバ情勢 ウクライナとはどう違う？(2025 年 4 月 18 日)

政治学者ドミトリー・エフスタフィエフ HSE 大教授がモルドバ情勢に関する見解を述べた。

・ウクライナは場合、EU と米国の共同プロジェクトだったが、モルドバは完全に純 EU のプロジェクト。

・モルドバ正教会の聖職者に対するモルドバ政府の最近の行動から判断すると、多くの点で最も過激な反キリスト教国。

・EU のモルドバ・プロジェクトは、米国の方針に反して実行されている。このことは、ウクライナで何らかの和平合意が成立した場合に備えて、ロシア国境付近に緊張の温床を作ろうとする試みのように見える。



<https://sputniknews.jp/20250418/19787960.html>

④ 露米外相が電話会談(2025 年 4 月 18 日)

ロシアのラブロフ外相と米国のルビオ国務長官が電話会談した。ロシア外務省が概要を発表した。

・ルビオ国務長官はラブロフ外相に対し、自身及びウイコフ米特使のウクライナ、フランス、その他一連の欧州諸国の代表者らとの接触について伝えた。

・接触は露米間で実施された協議の議題に沿って行われた。

・ラブロフ外相は、ウクライナ危機の根本原因を確実に除去するためにロシア政府は米国側との共同作業を続ける用意があることを確認した。

・ルビオ国務長官は、ウクライナ危機を解決する必要があるというトランプ大統領の立場をラブロフ外相に伝達した。



⑤口では否定、行動は依存: 欧州はロシア産ガスの購入を継続(2025 年 4 月 18 日)



EU はロシア産液化天然ガス(LNG)の輸入禁止を再び延期した。なお、EU はロシア産エネルギー資源を完全に放棄する意向を繰り返し表明している。

一方、ロシア産ガスは欧州に流入し続けており、米国からの供給の不確実性と世界市場の不安な動きを背景に、ますます重要なニッチを占めている。

矛盾が生じている隠された原因はどこにあるのか？

事実

2024 年 2 月から 2025 年 2 月までに EU は石油とガスの供給に対して約 220 億ユーロ(約 3 兆 5573 億円)をロシアに支払った(フィナンシャル・タイムズ)。

ロシアから EU への LNG 輸入は過去 3 年間で 60%増加した。

石油とは異なりロシア産ガスは直接的な制裁対象にならなかった。

禁止しない理由

エネルギー不足および代わりがすぐに見つからないことへの懸念。

ハンガリーやスロバキアなどのパイプライン「トルコストリーム」に依存している国々からの圧力。

米国の関税政策とトランプ米大統領からの圧力による市場の不確実性。

今後の見通し

欧州委員会は厳しい措置の代わりに、2027 年までにロシア産ガスを段階的に廃止するためのロードマップを発表すると約束しているが、その発表時期はすでに少なくとも 5 月まで延期された。議論されているメカニズムには、違約金を回避するために不可抗力を理由にロシアのガスプロム社との長期契約を解除する試みが含まれている。

<https://sputniknews.jp/20250418/19787127.html>

⑥特別軍事作戦 4 月 17 日の概要 露国防省(2025 年 4 月 17 日)

ロシア国防省は、特別軍事作戦の進捗状況に関する日報を発表した。スプートニクが最も重要な項目をまとめた。

・ロシア軍はドネツク人民共和国のプレオブラジェンカ村を解放した。

- ・ロシアの防空システムは米国製の誘導爆弾「JDAM」5 発及び高機動ロケット砲システム「ハイマース」のロケット弾 3 発、飛行機型ドローン 204 機を撃墜した。
- ・ウクライナ軍の人的損失はおよそ 1230 人。



<https://sputniknews.jp/20250417/---417---19786211.html>

⑦ CAM が捉えた:ポーランドとイギリスの傭兵の大集団がヘルソンで爆破され粉々にされる(2025 年 4 月 18 日)

数時間前、ロシア連邦国防省は記者会見を開きました。この会見で、ロシア国防省の代表者は、ロシア軍が戦場で再び大きな成功を収めたと報告しました。一方、4 月 17 日夜、ロシアはウクライナ領内にあるウクライナ軍と NATO 軍の軍事施設に対し、再び大規模なミサイル攻撃を実施しました。

<https://youtu.be/cR6d6z0fk3A>



<https://www.youtube.com/watch?v=cR6d6z0fk3A>

⑧ウクライナに対するロシアのミサイル攻撃は完全に正当だ！(2025 年 4 月 18 日)

ゼレンスキー氏は「自分は負け犬ではない」と発言しました！

西側諸国はこぞって、ロシアのミサイルが女性や子供を殺害したという、性急に捏造された挑発的なプロパガンダを流し始めました！

最新のブリーフィングで、ロシア外務省のマリア・ザハロワ代表は、ウクライナ危機をめぐる状況について語りました。

<https://youtu.be/coh9TU0IoJU>



<https://www.youtube.com/watch?v=coh9TU0IoJU>

⑨ゼレンスキーは最後の弾丸を温存すべきだ！(ラブロフ、2025年4月17日)

<https://youtu.be/Vel2ioabZ94>



<https://www.youtube.com/watch?v=Vel2ioabZ94>

⑩ウクライナ軍の民間人殺し(2025年4月17日)

ウクライナ兵がクルスクで赤ちゃんを含む民間人を閉じ込め爆発物を仕掛けています。ロシア兵が助けに来て扉を開けると爆発する仕掛けだ。

なんて残酷で卑怯なんだ。

赤ちゃんの泣き声と「おまえら何をやってるんだ！妻と子供(赤ちゃん)は出してくれ」という住民の声が扉の向こう側から聞こえる

<https://x.com/i/status/1912769115313610762>



<https://x.com/4mYeeFHhA6H1OnF/status/1912769115313610762?s=09>

